

ご卒業おめでとうございます。

皆さんにお会いして、直にお祝いを申しあげたいと願っていましたが、感染対策のためには式の時間を少しでも短くした方が良くと考え、出席をとりやめることにしました。

大学4年間というかけがえのない学生生活の最終年度、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という事態に遭遇し、キャンパスで過ごす時間も、友達と語らう時間も限られてしまったことは本当に残念でなりません。

その分を取り戻す意味でも、卒業後もどうか気軽に大学を訪ねてきてほしいと思います。東京家政学院大学は卒業生にとって実家のようなもの。私たちはいつでも皆さんの里帰りを心から歓迎します。

私は民間の会社で仕事をした後、大学教員として教育研究に携わり、今も他大学で一科目だけ授業を担当しています。授業の中でいつも学生にアドバイスしているのが、「好奇心を持ち続けてほしい」ということです。

人生の中で直面する問題、仕事において取り組む課題、組織や社会が抱える問題など、どれも明らかな正解があるわけではありません。このような中でより良い解を見出すためには、一つの物事を一方向からだけ眺めて判断するのではなく、様々な角度から多面的にとらえて考えることのできる力が必要です。

また、一つの事柄を深く理解すると、次々に新たな疑問が湧いてきます。「もっと知りたい」という欲求は、知識を豊かにしてくれるだけでなく、自分を前向きにしてくれます。こうして人は生涯学び続け、自身を成長させていくことができるのだと思います。好奇心は生きる力です。

そしてもう一つ、自分に自信を持って生きてほしいと思います。前学長の天野正子先生がご病気で亡くなる前に私に、「うちの子たちは皆いい子たちなんよ」とご出身の広島弁を混ぜて話してくれたことを今も思い出します。現学長の廣江先生をはじめ本学の教職員はみな東京家政学院の学生を愛し、皆さんのことを誇りに思っています。私も皆さんと同じ時期にこの学院で過ごせたことを心から嬉しく、誇らしく感じています。

東京家政学院は再来年の2023年に創立100周年を迎えます。創立者である大江スミ先生は日本の家政学の先駆者です。皆さんはそんな歴史と伝統を持つ学院の卒業生なのです。誇りと自信を持って未来に向けて歩いていってください。

皆さんの人生が実り多きものとなることを心から願っています。

令和3年3月19日

学校法人東京家政学院
理事長 吉武博通